

人と魚と海のネットワーク  
 香川県漁連ホームページ  
<http://seaclub.power.co.jp/>  
 E-mail:gyoren@power.co.jp



**JF** 高松市北浜町 8 - 25  
 TEL 087-825-0350  
**J F 香川漁連** FAX 087-851-0699

## 平成 14 年度放流事業計画決まる

県漁連の放流事業は、漁船漁業の活性化や水産資源の増大並びに資源管理型漁業の意識の高揚を図ることを目的に、昭和 61 年から県・信漁連・(財)水産振興基金の協力を得て、大型種苗の放流を継続し、16 年が経過したが、本年度からは県レベル 5 団体が統合して 4 月 1 日に発足した(社)香川県水産振興協会に業務移管し、同協会の中核的事業として実施することになった。

4 月 30 日に開催し、平成 14 年度放流事業計画を下記のとおり決定し、5 月 1 日から 5 月 8 日にかけて 5 ブロックで放流事業説明会を開催した。本年度最初の放流魚種はヒラメで、他の魚種も順次配布される。水産振興協会は将来的に指定法人を目指しており、指定法人は放流効果調査を義務づけられるので、従来に増して漁獲量調査にご協力をお願い致します。

協会では、理事会を 4 月 17 日、運営委員会を

### 平成 14 年度放流事業計画

#### 1. 地区別放流数量

種苗費：千円

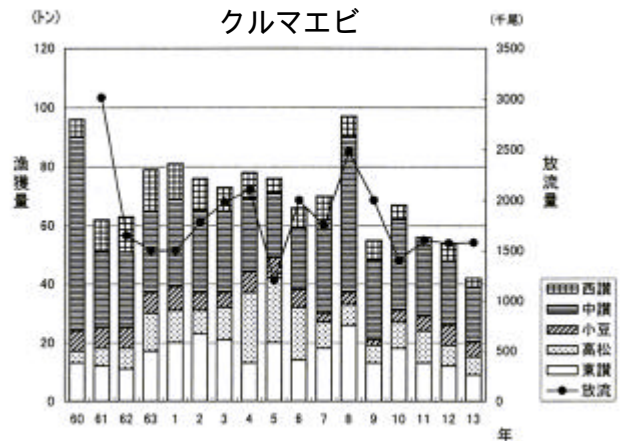
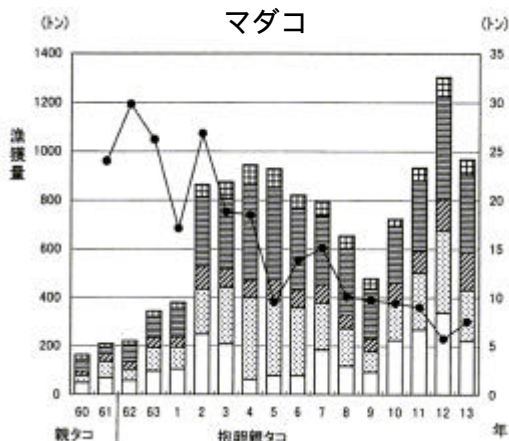
地区名	ヒラメ	クルマエビ	オコゼ	タコ	ベラ	備考
	千尾	千尾	千尾	kg	(千尾) kg	
東 讃	80	430	15.5	2,000	(85) 420	
高 松	50	300	15.5	3,000	(340) 1,700	
小 豆	90	140	30.0	2,000	0	
中 讃	50	430	0	3,000	(510) 2,550	
西 讃	80	300	19.0	2,000	(165) 840	
合 計	350	1600	80.0	12,000	(1100) 5,510	
種苗費	23,250	16,800	18,000	11,450	10,500	80,000

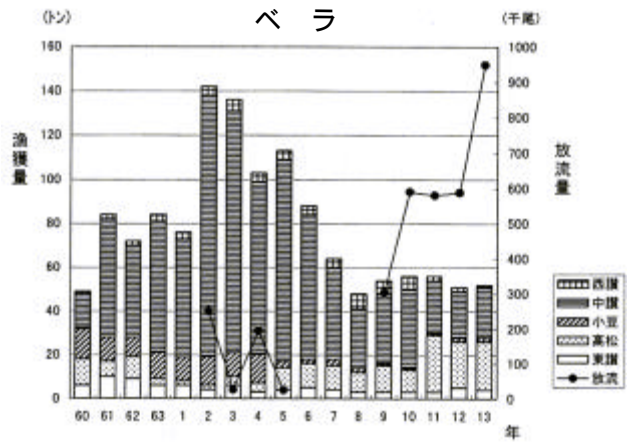
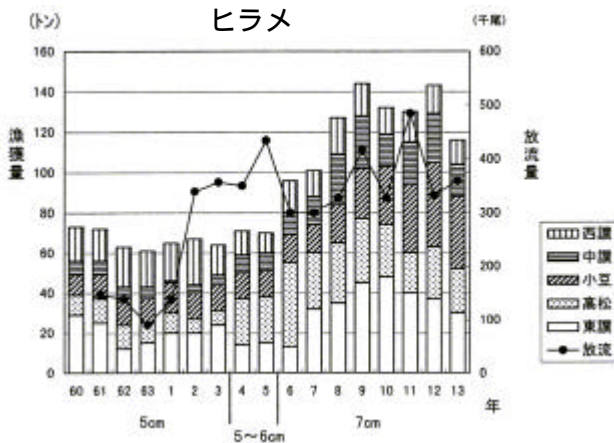
(注)タコ、ベラは、漁獲状況により数量変更の場合がある。

#### 2. 魚種別放流時期及び種苗サイズ

- ・ベラ (天然) 5 月 約 5 g (約 7 ~ 9 cm)
- ・ヒラメ (人工) 5 月 約 7 ~ 8 cm
- ・マダコ (天然) 6 月 ~ 7 月 約 1,000 g
- ・クルマエビ (人工) 6 月中旬 ~ 7 月上旬 約 6 ~ 7 cm
- ・オコゼ (人工) 10 月 ~ 11 月 約 6 cm

#### 3. 放流開始からの放流量と漁獲量の推移 (香川統計情報事務所資料)





## 地曳き網に子供ら大歓声!!

さぬき市津田町の津田漁協と(社)香川県水産振興協会は、4月28日、4月から同じさぬき市になった内陸部の寒川町の小学生を招いて、津田の松原海岸で地曳き網の体験会を開催した。

地曳き網に挑んだのは、神前小学校の児童と保護者ら約50人。漁業者の指導のもとに、沖合約80mに仕掛けた網を全員で、掛け声に合わせて力いっぱい曳き揚げた。約1時間奮闘の後の網の中には、スズキ、クロダイ、カレイ、コノシロ、コチ、イカなど約60kgの魚がどっさり。子供たちは、ピチピチと飛び跳ねる魚に大はしゃぎしていた。



地曳き網で獲れた魚をヤヤいながらさわっている子供たち

続いて、市内の洗心亭安岐店主によるアジ、カワハギ、ヒラメ、イカのさばき方教室があり、あざやかな包丁さばきに目を見張っていた。ヒラメのボタン盛りの試食では、「おいしい、おいしい」と大はしゃぎで平らげた。また、早朝から大坪婦人部長ら部員10名が用意した浜料理の試食会を行った。

試食会は、名和組合長の挨拶で始まり、その後、浜料理を紹介した。提供されたメニューは、スズキとボラの刺身、地エビの唐揚げ、ボラのフライ、ハギの煮付、コノシロの酢の物、おにぎり。子供たち

は、刺身や唐揚げ、フライを口一杯にほおばり、刺身も「おいしい、おいしい」と盛んに箸を進めたが、ハギの煮付やコノシロの酢の物はやや敬遠がちであった。最後に、漁協が用意したアンケート用紙に回答した。

締めくくりは、児童を代表して馬場愛さんがお礼の言葉を述べ地曳き網の体験会を終了した。

帰りには、地曳き網で獲った魚を1家族1袋ずつ配布したが、婦人部の浜料理がおいしいと、帰り際ぎりぎり迄食べていた子供が2~3人いた他、地曳き網で獲れたネコザメをぜひ持ち帰りたいとねばる子供もいて、楽しい地曳き網の体験会となり、参加者全員が何度もありがとうございますの言葉を残して散会した。

## 地産地消を目指す!

坂出市民に地元の農林水産物を食べて頂き、健康な体づくりをしてもらうとともに、農林水産物の消費拡大を図り、漁船漁業の活性化を図る目的で、与島漁協が(社)香川県水産振興協会、JA香川県坂出支部の協力を得、4月27日坂出市元町の坂出市民広場で、坂出特産市を開催した。特産市は、昨年4月から毎月第2土曜日、同市入船町の同漁協で開いている「大橋お魚市」の1周年記念として開催し、4月14日にオープンしたばかりの同広場で、知名度アップを狙った。特産市は、東山組合長の主催者挨拶で始まり、谷川県議会議員らの来賓挨拶に続いて、モチ投げを実施した。モチの袋にお米が魚の名が書かれていれば、その商品がプレゼントされるとあって会場は白熱気味。200ヶ用意されたモチが投げられると、大勢の来場者が歓声をあげて追いかけていた。

即売会では、JA坂出支部出品の生みたてタマゴのほか、タイ、ヒラメ、メバル等約30種類の魚を、市場への卸値程度で販売、また、漁協婦人部はエビ、

与島漁協 坂出市特産市開催

イカ、タコの天ぷらの実演販売を行った。詰めかけた主婦らが熱心に品定めし、お目当ての魚を買い求めている。



お目当ての魚を買い求めている一般消費者

この特産市には、おさかなシャトル 2 号も出展し、お魚についてのアンケート用紙の配布や、おさかなビンゴゲームをする等して会場を盛り上げた。

## 「JFグループ」のイメージアップ運動

全漁連は、21世紀にふさわしい漁協系統（JFグループ）の新しいイメージを構築し内外にアピールするため、漁協系統イメージ刷新運動を展開しており、平成13年4月1日に漁協系統統一呼称「JF（ジェイエフ）」とシンボルマークを決定発表し、活用を呼びかけている。ところが、1年経った平成14年3月末現在の調査では、普及がもうひとつであるということもあり、全漁連CIチームが「JFマーク」並びに「JFコミュニケーションネーム」等イメージ刷新運動の各浜での使用促進・啓発普及を図る一助として、ポスター・のぼり等啓発資材を作成し、送付してきている。

本会では、購買部の定期便により5月の連休明けから適宜組合の方へ配達しているので、呼称「JF（ジェイエフ）」とシンボルマークの浸透に有効に活用されたい。



## サワラにまつわることわざ

先月号に引き続いて、旬の魚のサワラのことわざを紹介する。

寒中、寒強く降雪多き年は、入り込み多し。

春寒の強き年（春になりて寒い）は、鯖の讃海の中央に少なく、播磨及び燧灘に停滞して、そこで産卵を終わり、外洋に帰るといふ。

入込み時に、紀州地（北邊郡即ち明石海峡方面）鯖多ければ、讃岐の海には豊漁なり。

八十八夜前後の大風は豊漁を意味する。

イカナゴ多き年は鯖の漁獲もまた多し。イカナゴの発生が多い時は、鯖がこれを補食し、以って滞留期間長きなるべし。

入込み当時東風吹けば漁多し。内海に於いては、東風の後は海水混濁するを例とするを以って流網等は漁獲多き理なり。

旧暦5月（稚魚の出魚後）頃に至り、小鯖、サバと混じって入込み多き年は、必ず翌年は鯖豊漁なり。

晴れたる暗夜漁獲多し。鯖流網に最も漁獲多きは、星明かりたる暗夜に漁獲多きを例とするものにして、真黒の暗夜よりも漁獲多しと称す。これはたぶん、網具の動揺により夜光虫より発する燐光が、真黒の暗夜よりも星明かりの暗夜のほうが鯖の目につく事が少ないのであろう。

鯖は潮流に向かいて遊泳す。流網に掛かる鯖は十中八九迄は潮流に向かいて掛かる。

大型鯖は底層を泳ぎ小型鯖は上層に多し。入込み当時には大型鯖を目的に底の網は荒目にする者あり。



大きなサワラを漁獲しニッコリ微笑むサワラ流し網漁業者  
(TOKYO発香川を食べるより転載)